

# 当期の概況

鋼材の販売数量は、自動車向けの需要が減少したことから、前年同期を下回りました。アルミ板の販売数量は、飲料用缶材向けの需要の伸び悩みにより、前年同期を下回りました。

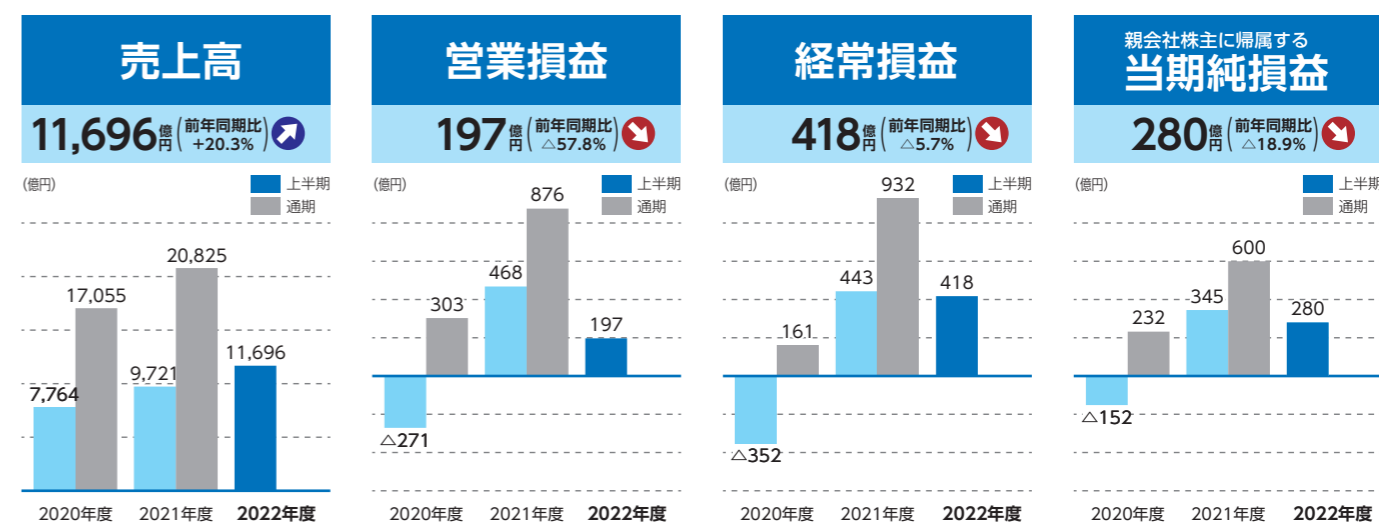
素形材の販売数量は、造船向け需要を取り込んだ鋳鍛鋼や一般産業向け需要が回復したチタンで前年同期を上回りました。一方、自動車向けの需要が減少したことから、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉は前年同期を下回りました。

油圧ショベルの販売台数は、インフラ投資の減退により需要が減少した中国での減少に加え、上海ロックダウンによる部品の調達不足影響を受けた日本や欧州

でも減少したことから、前年同期を下回りました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期比1,974億円増収の1兆1,696億円となり、素形材事業や建設機械における販売数量の減少、アルミ板や建設機械における調達コストアップの販売価格への転嫁遅れ、電力における燃料費調整の時期ずれを含む売価価格に関する一過性の減益影響などにより、営業利益は前年同期比270億円減益の197億円、経常利益は前年同期比25億円減益の418億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は建設機械で中国生産拠点の集約に伴う事業整理損を計上したことにより、前年同期比65億円減益の280億円となりました。

# 業績ハイライト(連結)



## 事業別売上高(2022年度上半期)



- 鉄鋼アルミ ..... 45%
- 素形材 ..... 11%
- 溶接 ..... 4%
- 機械 ..... 7%
- エンジニアリング ..... 5%
- 建設機械 ..... 15%
- 電力 ..... 12%
- その他 ..... 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額317億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額11,696億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

